

## 令和4年5月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和4年4月26日（火）午前10時30分～11時10分  
場所 市役所2階 第1委員会室  
出席 市政記者クラブ7社

### 会見内容

#### 1. はじめに（1項目）

##### 1. 「釧路市音別町憩いの森の桜等について」

- 知床の観光船で大きな事故がおきました。お亡くなりになられた方々へ、ご冥福をお祈り申し上げますとともに、一日も早く、発見し帰ってきてほしいとの思いです。
- 釧路市消防本部も一昨日（4月24日）支援に向かっておりましたが、その後、現地で体制が充足しているため、戻っております。
- 一日も早く皆さんが帰ってくることを望むとともに、安全は常に重要であるので、原因については、しっかり究明していただきたいと思っております。
- 釧路地方で最も早く桜が咲くのが釧路市音別町であり、今週末にも開花する見込みです。そこで、市独自で開花宣言を行い、この桜を楽しんでいただければと考えているところです。
- 「音別町憩いの森」には、エゾヤマザクラとヤエザクラが合わせて約280本あり、夜でも楽しめるよう、ライトアップを行う予定であり、良い雰囲気を作っていくと計画しております。
- 日曜日（4月24日）には、「ルート38音別館 おんぽーと」もオープンしておりますので、開花宣言とあわせて、すすめてまいります。

#### 2. 話題提供（2項目）

##### 1. 「ビズサポ補助金2022」の申請受付について

- 釧路市中小企業・小規模事業者活性化補助金、通称「ビズサポ補助金2022」の新設について説明いたします。
- この補助金は、令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して実施するもので、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、売上アップや人材確保などに積極的に取り組む中小企業や小規模事業者を支援する制度です。
- 補助対象事業は、新製品・新サービス開発、販売促進、店舗改修、人材確保、そして設備投資にかかる取り組みとしております。
- 補助対象事業者は、釧路市内に主たる事業所を有する中小企業、小規模事業者

であり、一般社団法人、漁業協同組合なども対象といたします。

- 補助率と補助上限額は、中小企業が、補助率3分の2、上限額は50万円、小規模事業者が、補助率4分の3、上限額は30万円です。
- 補助金の申請受付期間は、5月23日（月曜日）から6月3日（金曜日）までとし、申請方法は、原則メールといたします。先着順での受付とし、予算額（4千万円）に到達次第、受付を終了する予定です。
- 要綱や申請書等の詳細につきましては、5月9日（月曜日）に市のホームページに掲載いたします。
- あわせて、本補助金の制度の主旨、内容をご理解いただくため、「ビズサポ補助金セミナー2022」を開催いたします。このセミナーは、5月19日（木曜日）14時から、釧路市観光国際交流センターで開催いたします。当日はオンラインでのライブ配信も行います。また、当日参加できない方に対しましては、翌日以降、YouTubeにてアーカイブ配信も行います。
- ぜひこのセミナーをご覧ください、コロナにより落ち込んだ市内経済の回復に向け、事業者の皆様へ新たな取組の一步を踏み出していただきたく、そこを積極的に支援するために創設した補助金であります。多くの事業者の皆様へぜひご活用いただけるよう、情報発信にご協力をお願いいたします。

## 2. 日本環境設計株式会社グループとの「ボトル to ボトル」の実施について

- 日本環境設計株式会社のグループ企業であるペットリファインテクノロジー株式会社と、使用済みペットボトルから新しいペットボトルへ再生する「ボトル to ボトル」の取り組みを始めました。
- 日本環境設計株式会社では、ペットボトルを分子レベルまで分解したうえで、「バージンパルプ」のような、ペットボトルの原材料に再生する技術を確認いたしました。一本のペットボトルから、ほぼ一本のペットボトルを再生する技術を確認し、半永久的に再生する事業を行っております。
- このたび、釧路市において回収されるペットボトルについて、ペットリファインテクノロジー株式会社と、4月1日付けで、売買契約を締結し、4月14日に、回収したペットボトルの搬出を完了いたしました。今後は、週に一、二回、川崎市にある再生工場への搬出を行う予定です。
- これまでも、多くのペットボトルのリサイクルは、しっかりと進めてまいりましたが、こういった製品にリサイクルされているのかというところまで、明確になっておらず、把握しきれない状況でした。
- しかしながら今回、当該工場では、ペットボトルがほぼ一本同じ商品に再生されますので、今後、釧路市で回収された使用済みペットボトルは、新しいペットボトルへ再生される形となり、循環し続ける資源となります。

■ このようなりサイクルが目に見えることにより、脱炭素、二酸化炭素の削減、ゼロカーボンを加速するものと考えております。

■ 先月3月28日に、日本環境設計株式会社と「地域循環共生圏推進に関する包括連携協定」を締結しており、今後は、ペットボトルの再生ならびに、リサイクルの取り組みについて、市内小中学校にて出前授業を行う予定でありますので、市民へのリサイクルの意識を高めるような取り組みを、積極的に行ってまいります。

### 3. 質疑要旨

(質問)

・回収されたペットボトルの売買契約を締結されたとのことでしたが、年間の売買見込み数はどのくらいでしょうか。また、収入はどのくらいになりますか。

(市長)

・売却価格は1キログラムあたり1.1円ですので、1年間で売買量は約900トン、収入金額は、約99万円を見込んでおります。

(質問)

・さきほどの数量は、現在釧路市で回収している、すべての量でしょうか。また、リサイクルされるペットボトルは、潰してしまっても良いのでしょうか。

(市長)

・釧路市で回収される、すべての量です。使用済みのペットボトルの回収の際は、潰していただいてもかまいません。分子レベルで分解して再生しますので、ペットボトルに色がついていてもかまいません。

今回の件は、各種の計画に環境への取り組みを盛り込み、釧路市が環境施策を重視して進めているところですので、日本環境設計株式会社からも期待されてお話しをいただいた次第です。今は現状では年間約900トンの搬出見込みですが、今後、例えば、この50～60倍の数量を搬出することができれば工場の設立という可能性もでてきますので、この取り組みを続けていながら、そのような展開まで進めていければと期待しております。

(質問)

・日本製紙跡地利用にも活用できるということですか。

(市長)

・そういうこともあります。しかしながら、1つの工場が稼働するのに、およそ6万トンの量が必要とのことですので、それをどのように構築していくのか課題はありますが、まずはいち早く事業者と連携して取り組みをすすめて、市民のリサイクルへの意識を高めていきたいと考えています。

(質問)

・今回の取り組みは、日本環境設計株式会社からお話しがあったということですか。

(市長)

・はい、そうです。

(質問)

・道内の自治体で売買契約を結んでいるのは、釧路市だけでしょうか。釧路市が環境を重視しているという姿勢により、契約締結に至ったのでしょうか。

(市長)

・はい、道内では釧路市だけです。この豊かな自然の中での環境に対する取り組み

が素晴らしいということで、この度、釧路市に声がかかりました。私もリサイクル工場へ視察に行き、大変素晴らしい技術であると実感しております。

(質問)

- ・回収されたペットボトルの輸送にかかる費用は、日本環境設計株式会社が負担するということですか。回収されたペットボトルは、高山にある釧路広域連合清掃工場に集められるのでしょうか。

(市民環境部次長)

- ・日本環境設計株式会社の負担で輸送しております。また、回収されたペットボトルは、鳥取地区にあります釧路市リサイクルセンターに集められます。

(質問)

- ・「ビズサポ補助金2022」は、新設された補助金ですか？  
また、予算額が4千万円とお聞きしましたが、何社程度の申し込みを想定しておりますか。

(商業労政課長)

- ・新設となります。また、申し込みにつきましては、約100事業者を想定しております。

(質問)

- ・高病原性鳥インフルエンザについて、音別町のエミューの殺処分が今日から始まりますが、市長の受け止め方、市の協力体制、事業者への補償の3点について伺います。

(市長)

- ・音別町でエミューが1羽亡くなるっているという報告を受け、検査を実施し、今朝6時から対応を行っております。
- ・基本的には北海道が決定し、市もしっかり協力していきます。エミューは約100羽程度ですが、今朝6時から始めて24時間、明日の朝くらいまでには作業が完了する見込みです。市からも59名、3班に分けて、サポートする体制を整えているところです。事業者の方への補償については、先日の網走の事例において、まだ具体的に内容が決まってないのが実態であり、国の方でも検討しているところでもありますので、今回も同様の措置であると考えております。エミューは油を利用するなど、主に食用の肉となるニワトリとはまた異なりますので、今後、国の指導と命令に従って対応してまいります。

(質問)

- ・59名の職員派遣は、どちらの部署からの派遣にはりますか。

(市長)

- ・音別町行政センター、産業振興部、消防本部からの派遣になります。

(質問)

- ・今後、動物園ではどのような対応策がとられるのでしょうか。

(動物園長)

- ・ハクトウワシ舎や猛禽舎など、取り付け可能な獣舎に細かい網目の防鳥ネットを張ることを考えております。準備でき次第対応していきます。

(質問)

- ・知床の遊覧船の事故について、どのように釧路市の消防が応援に行かれたのでしょうか。

(市長)

- ・消防の救急班が、日曜日(4月24日)の夜中に応援に行き、一日中待機していましたが、現場の体制が整いましたので、戻ってきたとのことでした。

(質問)

- ・ 徐々に、「まん延防止等重点措置」の無いゴールデンウィークが始まりますが、鉧路市としては、観光需要に対する期待や、逆に新型コロナウイルス感染症防止対策に関することについて、何かありますでしょうか。

(市長)

- ・ 知床の事故等がありましたが、今回のゴールデンウィークは基本的な感染症対策を行いながら日常を取り戻していくとのことですので、音別の桜の開花宣言や「ルート38音別館 おんぼーと」の開設もあり、豊かな自然の中で行楽を楽しんでいただければと思います。

(質問)

- ・ 鉧路市では、新型コロナワクチン接種の3回目の接種率が52.5%と約半分を超えたようですが、この現状を市長はどのように評価されておりますか。

(市長)

- ・ 全国と比較しましても平均値であると認識しておりますので、今後も医師会等医療関係機関とも連携しながら、しっかりとした接種体制を確保しながらすすめてまいりたいと考えております。

(質問)

- ・ 今日防災庁舎で、支所廃止の住民説明会が開かれます。反対意見も多いと思われませんが、そのことを受けて、方針の変更はあるのでしょうか。

(市長)

- ・ 鉧路市議会の本会議の中でも説明いたしましたが、マイナンバーカードで対応ができない委任状と職権を用いて証明書を取得するケースが、あわせて4%弱の件数がありまして、どのように対応していけばよいのかという課題が残っております。
- ・ この件については、担当部署から国へ、見込みや見通しについて問合せをしておりますが、まだ回答が来ておりません。
- ・ このような課題を受けて、どのように進めていくかということと、反対のご意見の中にも様々な意見があり、例えばマイナンバー制度に反対だから支所廃止には反対、支所のほうが本庁より親切だから支所廃止には反対という意見もありますので、様々なご意見をうかがっていきながら進めていくことが大事であると考えております。さきほど申し上げた、マイナンバーカードでは対応できない委任状と職権を用いる方々への対応について、今の段階ではまだ、内容が出来上がっておりません。

(質問)

- ・ 来年（令和5年）の2月に支所を廃止するというを示されましたが、なぜ来年の2月としたのか、その理由を教えてください。

(市長)

- ・ 鉧路市内のマイナンバーセンターの開設もあり、鉧路市民のマイナンバーカードの取得率は、全国平均よりは高く、取得が加速している中で、今後一定程度の取得率に達するだろうという目標をもちながら、そのような（来年の2月に支所廃止という）考え方に至りました。

ただし、さきほど申し上げた委任状と職権を用いている利用者への対応をどうするのかということは、状況を踏まえながら、考えていかなければなりません。

(質問)

- ・ では、変更の可能性もあるということですか。

(市長)

- さきほど申し上げたとおり、マイナンバーカードでは対応できない委任状と職権を用いた利用へ、どのように対応していくのかという、現実的な問題があります。  
(質問)
- その問題について、国に問い合わせているということですか？  
(市長)
- はい、そうです。また、支所の利用データを2月、3月、4月と月別で押さえるようにしておりますが、単なる総数のみならず、委任状、職権をふくめた分類で、現状把握をするようしているところであり、今申し上げた委任や職権等、コンビニなどで対応できない問題に対して、考えているところです。  
(質問)
- 市立病院の訴訟で相手方が控訴したことについて、ご意見をお聞かせください。  
(市長)
- 市の主張が認められたことには安堵しています。民事の場合、100対0ということはあまりないと認識しており、こういった結果は非常に重たいものだと考えています。それゆえに、相手側が控訴するということは当然のことだと思います。しかしながら、この100対0という結果を各方面でどう判断されるのかということだと思います。